

令和6年度 全幼研ワクワクプロジェクト研修会報告
主催 公益社団法人 全国幼児教育研究協会

「子どもの心に気づくとき
～一人ひとりが みんな たいせつ～」

香川支部

- 実施日 令和 6年 7月 23日 (火)
時間 13時 00分 ~ 15時 10分
- 会場 公益財団法人 香川県教育会館 ミューズホール
- 参加者 全幼研会員 42名、幼児教育関係者 221名
(計 263名)
- 講師 児童文学作家
くすのき しげのり 氏
- 内容
 - ・ 絵本『おこだでませんように』で有名な、くすのきしげのり先生から、たくさんの絵本の読み聞かせをしていただいた。



春のおえかきで ぼくがかいたのは、黒い土。
みんなは「なにこれ?」「へんだよ」って言うけれど……。
ぼく、チューリップを応援したかったんだ。

くすのき先生自身が教員生活の中で経験したこと。「相手の心の動きや考えについて、分かっているつもりでも、実は分かっていることがないことがある。ということを知っていなければならぬ」そのような思いから作られた作品。

子ぎつねと人間とサヌカイトによる音楽をベースにした交流の物語。信じることの素晴らしさを教えてくれる物語。

舞台は香川県。叩くといい音がする石「サヌカイト(カンカン石)」を題材にした作品。香川県の皆さんにはぜひ読んでほしい作品。



『だいたいぶかな はじめてのしゅくだい』
『だいたいぶかな いちねんせい』

小学校にあがる前の子どもたちにはぜひ読んでもらいたい作品。

- 作者であるくすのき先生しか知らない、絵本の中に出てくる登場人物のヒミツについて。絵本の中の子どもたちは、絵本の中で生活して成長している。そして、それぞれの絵本の中の登場人物がつながっている！【関連図参照】

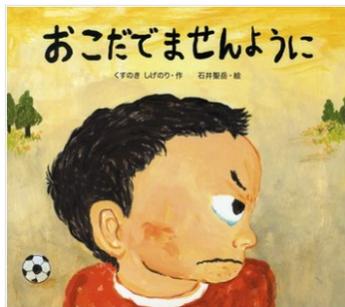
くすのき先生の作品のヒミツ

知れば知るほどおもしろい！

くすのき先生の作品のヒミツ

Part 2

東洋館出版社



「ぼくは、いつでもおこられる。家でも学校でも…。休み時間に、友達がなかまはずれにするからなぐつたら、先生にしかられた」いつも誤解されて損ばかりしている少年が、七夕さまの短冊に書いた願いごとは…？

子どもたち一人一人に、その時々で揺れ動く心がある。そしてどの子の心の中にも、祈りのような思いがある。そんな子どもたちの心の動きや祈りのような思いに気付くことができる大人でありたい。

参観日に自分の「いいところ」を発表することになったぼく。いくら考えても、思い出すのは 友達の「いいところ」ばかり。

絵本を読むときに絵もしっかり見てほしい。この絵本に出てくる子どもたちは、みんないいところがあって、みんな頑張っているところがあるんだ、ということがきちんと描かれている作品。



この作品には、「ぼく」と家族が見つけた「思いやり」「愛情」「幸せ」「家族の絆」、そういった目には見えない素敵なものがつまっている。

想像力と共感力を働かせて読んでほしい作品。続編『おにいちゃんさんかんび』『わたしのおにいちゃん!』





「大好きなおかあちゃんへの、クリスマスプレゼントを買いに出かけた幼い姉と弟。おかあちゃんのことを思う、やさしい「おとうと」。正直であろうとした「おねえちゃん」。そんな二人のために、福引の補助券を出し合う親切な「おとなたち」。人の世にある「ぬくもり」が感じられる作品。

子どもたちが、人を信じられるということ、そこに希望をもてるということ。そんな「環境」をつくっていくことが大人の役割。

「おっ、『ええたま いっちょう』や」「それ、どういう意味?」「『ナイスボール』って言うことや」信頼できる大人に出会った子どもの心の成長を描いた作品。

この絵本に出てくるおまわりさんは、『おこだでませんように』の男の子が大きくなった姿。自分も小さいときに同じことがあったから、男の子に共感できる。



- ・ 講演のキーワードは「想像する力」「共感する力」。
- ・ 読書を楽しむことは、心の窓を開くこと、そして人生を豊かにすること。
- ・ デジタル化がどんどん進んでいる中、それを止めることはできない。しかし、幼児期にしっかりと紙の本に親しむ豊かな読書環境をつくってほしい。紙の本を読むことは、「紙の重さを感じる」「紙の手触りを感じる」「紙の匂いを感じる」「ページをめくるときに紙の音を感じる」など五感を使って読書を楽しむことができる。
- ・ 子どもたちにコミュニケーション力をつけてあげることが大切。コミュニケーション力は「思いや考えを伝える力」だけではない。「相手の心を察する、慮る、押し量る、思いやる力」もコミュニケーション力として大切である。後者の力は、「想像する力」や「共感する力」がないと育たない。

○ まとめ

講演の中でのくすのき先生の読み聞かせの時間は、先生の穏やかで温かなお人柄あふれる語り口調に、あっという間に物語の世界に引き込まれ、誰もが童心に返った気持ちでゆったりと聞き入ることができた。日頃、保育の中で絵本の読み聞かせをしている自分たちの姿と重ねたり、物語に出てくる子どもたちの姿と自分のクラスの子どもの姿を重ねたりして聞いている聴講者も多かったのではないかなと思う。

また、絵本の1ページ1ページに込められた文字では表現できない主人公の心情や人間関係、さらに他の絵本との関係性など、作者ご自身だからこそ知っている秘密のような情報もたくさん教えていただいた。絵本は、文字だけではなく、絵からもたくさんの情報を得ることができ、「想像する力」「共感する力」を育てていくことができる。

香川県幼児教育研究会の令和6年度研究主題は「一人一人のウェルビーイングを求めて」である。将来、夢や希望をもって幸せな未来を築いていく子どもたちを育てていくために、私たち保育者自身も幸せでなければいけない。そんな中、この講演会では、とても幸せな時間を過ごすことができた。明日も、あさっても、これからやってくる未来が、ずっと幸せでありますように、そして輝きながら生きていけるように、子どもたちの前で笑顔いっぱい過ごせるようにしたいと思った講演会だった。



○ 聴講者の感想

- 絵本を通して豊かな心を育むということ、絵を読むこと、行間を読むことで、想像する力が身につく。その力が、子どもの表情を見ること、子どものつぶやきの言葉と言葉の間を読む大切さにつながるということを教えていただいた。
- 子どもたちにとって、保育者が大切な環境であるということが心に残った。特に、自分の発する言葉には大きな影響力があることから、温かい言葉を掛けたり、一人一人が大切であるということを伝えたりしていきたい。
- 温かい語り口調で、作品の世界がそのまま広がるようで、読み聞かせの楽しさを感じた。子どもたちにも、その気持ちをもちながら読み聞かせを行っていきたい。読み聞かせは「間」が大切であることを、実際に読み聞かせをしていただき実感した。
- 絵本の読み聞かせは、読み手の気持ちを込め、間の取り方や読み方を工夫することで「こんなにも心に響くのだ」と感動した。子どもたちに読む時、絵や背景からも想像したり、本の手触りや匂いなど、五感を使って一緒に読むことを意識したりしながら、絵本に親しむ機会を作っていきたい。
- 子どもの中に秘められた心を繊細に読み取っていくことはとても難しいが、掛けられる言葉一つで前向きになれたり、嬉しくなったりするのだと改めて感じた。
- 夢だった保育者になれたことがゴールではなく、生き方を考えることで志をもち、それがスタートになるという話が胸に刺さった。どんな人になりたいかを自分自身に問い掛けながら、自分の人生を大切に生きると同時に、子どもたちの人生もより豊かで幸せなものになるように保育に努めていきたい。
- 幼児期に思いやりの気持ちを育むために、身近な人からの絵本の読み聞かせはとても重要であると再認識することができた。また、物語を純粋に楽しむ気持ちは、子どもも大人も同じであり、絵本を通して価値観や自分の人生を豊かにすると感じた。
- 大人になってこれだけたくさんの絵本を読んでもらったのは初めてである。絵本1冊ごとにたくさんの思いがあふれ、たくさん想像し、たくさん考えることができた。子どもたちにも自分が今日感じたような思いを感じてもらえるよう、自らがモデルであることを自覚し接していきたい。
- 『チューリップさいた』の園長先生のような園長になりたい！と素直に感じた。
- 保育者は子どもにとってとても大切な人的環境であり、子どもが信じられる大人になろうと思った。また、言葉で伝える力だけでなく、相手の心を察する力、思いやる力を一緒に身に付け、コミュニケーション力を高めていこうと思った。
- 「私たち一人ひとりがよりよく生きることが、一人でできる大きな社会貢献である」という話が印象に残った。一人ひとりが心豊かに生きることが、周りの関わりのある人たちに良い影響があるのだと知った。そのことを常に意識しながら、日々子どもたちと関わっていきたい。
- 私は、毎年七夕の時期になると『おこだでませんように』を読む。その度に保育者として、親としてハッとさせられる大好きな作品の一つである。「子どもたちの本当の思いをきちんと読み取れているかな」「仕事が忙しいことを理由に自分の子を褒めたり抱きしめたりできていないかも…」と自分自身を振り返るきっかけになっている。絵本の中の男の子が『ええたまいっちょう』で立派な警察官になったということを知り、教え子が成長したことを知った時のような喜びを感じてとても嬉しかった。
- 紙の絵本に触れる機会をあえて作り、心の中にあるバリアをとり、五感を通して絵本を体験できるように関わる、また、一人一人が大切な存在であることも伝えていきたい。



令和6年度 全幼研ワクワクプロジェクト研修会報告
主催 公益社団法人 全国幼児教育研究協会

「保育の質の向上をめざして
～これからの幼児教育・保育を考える～」

三重支部

- 実施日 令和6年 9月 14日 (土)
時間 14時00分～ 16時00分
- 会場 鳥羽市立かもめ幼稚園
- 参加者 全幼研会員22名 乳幼児教育関係者38名 (計 60名)
- 講師 聖徳大学院教授・聖徳大学三田幼稚園園長
塩 美佐枝 氏
- 研修内容
講演会「こどもをまんなかにした幼児教育・保育のあり方」

「園がおかれている現状」

急激な時代の変化（社会の変化・化学技術の変化）、女性の就労促進（労働力不足）、核家族化による子育ての外部依存、少子・高齢社会。帰国子女やルーツが外国にある子どもも増え、世界も近くなってきた。21世紀を生き抜く子どもたちにどんな教育をすればいいのか、幼稚園・保育園・こども園に期待されていることは何かを私たちは考えていく必要がある。

「幼児期にはぐくみたい21世紀型能力」

基礎力（基本的信頼感・情緒の安定・基本的生活習慣・言葉（話す・聞く）・運動能力）を獲得することで、思考力を使いながらいろいろなことを考えたり、新しいものをつくったり生み出したり、失敗してもめげないで逃げ出さなくて、他の方法はないかと考えていくことができるような子どもたちが育っていく。実体験の中で、気付いたり発見したり、試行錯誤したりすることがとても大切である。子どもたちは、やらされたり紙で教えられたりしたのではなく、自分で面白がってやることで学習が進んでいくということを考えて私たちは保育を組み立てていかななくてはならない。



「一人一人に応じた指導」

園には様々な発達の子どもたちがいる。一人一人の発達や人間関係や生活体験が深まっていくためには、先生が一人一人の子どもにちゃんと気持ちを向けて、困った時は気持ちに寄り添いながら一緒に困って一緒に考える。先生との安心できる人間関係の中で、子どもたちは、何をやっても大丈夫だと思い、探索行動を活発に行って学習が広がったり深まったりしていく。保護者には、事例をあげながら、そのようなエピソードを伝えていくことが大切である。また小学校の教育も「主体的・対話的で深い学び」が大切にされ、個別の学習目標、個別指導、学級全体の活動など、中央教育審議会でも大きく変わってきている。算数の文章問題では、最後の答が間違っているにもかかわらず、途中の考え方が合っているとたくさんの点数が入る、そういう時代に「 $1+1=2$ 」を早々と覚えても何の意味もない。そういう教育ではだめだということを、私たちがちゃんとわかっていないとこれからの教育をみんなで考えていくことはできない。

この後、21世紀型の幼児教育を考えた時に、自分の園ではこういったことを大事にしたいかということグループで話し合いました。

参加者の声・・・

- これからの時代を生きていく子ども達にどんな能力が必要か、というお話がとても印象的でした。クラスには自信がない子が多く、失敗が嫌だったり、負けることが嫌だったり、なかなか積極的になれない子が多いです。自己肯定感を高められるよう、保育の中にしかけをしていくことが必要だと感じました。
- 子ども達は実体験を通して様々なことを身につけていくため、私たちが全て答えを与えるのではなく、子どもが失敗や成功など、様々な体験をする中で学んでいくことを大切にしていきたいです。
- 子どもを取り巻く環境は常に変化しているのに、保育が変わらないままではいけない。私たちは、どのように変化した時代にも生き抜ける力を子ども達につけていく責任があるということを知り、その大切さを痛感しました。子ども達が自ら考え、工夫し、試行錯誤していけるような保育をしていきたい。

<まとめ> (成果や課題)

いま、新しい形へと変わりつつある三重県の幼児教育にとって、学びの多い研修となりました。これからの時代に必要なことを園の取り組みをもとに具体的にお話して下さる中で、変わっていかねばならないこと、変えていってはならないことを教えていただきました。子どもたちを取り巻く状況はどんどん変わっています。だからこそ私たちは、これまでよりいっそう、一人一人にしっかりと向き合った保育をしていくことが大切だと感じました。

今回は、久しぶりの大きな対面式の研修会となり、北部から南部までたくさんの方が参加されました。参加者の方からも、塩先生のお話をお聞きした後に、グループで話し合えたことがとても実りになったという声がたくさんありました。講演をただ聞くだけでなく、ディスカッションすることがより学びになり、それこそが全幼研の醍醐味であることを感じました。また、会場であるかもめ幼稚園が、環境公開をしてくださったことも好評でした。ただ、土曜日ということで、保育所やこども園の方が出にくいという課題もあり、今後はオンラインとのハイブリッドやアーカイブを残すなどの工夫も必要であると感じました。